

呼び起こせ、心の奥の常識を

中学生のメッセージを受け止め、すべての人がルールを守り、マナーを大切に、モラル豊かに生きることができるといえる風土(人)づくりを展開していきます。

教育懇話会でのみなさんの声から

鳥取市教育委員会は、学校教育をより充実させるため、平成15年度から教育懇話会を開催してきました。

平成15年度は、合併前の各中学校区ごとに保護者や教職員を対象にした教育懇話会を行い、家庭の教育力の低下や学校教育の充実を指摘する声など、皆さんの意見をいただきました。

その中で、「社会性・規範意識・道徳心の低下」に対する多くの声(下記参照)を重く受けとめ、平成16年度の教育懇話会では、これをテーマに合併後の18の中学校区で開催し、保護者、学校、教育委員会の3者で意見交換を行いました(合併後は、地域住民のみならずも参加)。

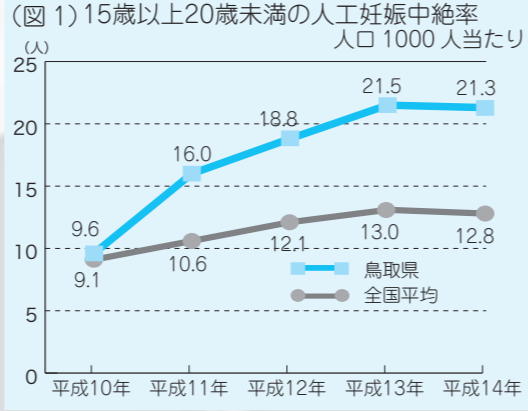
子どもたちの意識に注意信号?

鳥取県教育委員会が平成15年度に実施した小・中学生対象の基礎学力調査の中で、「社会のルール・マナーを大切にしていますか」との問いに対し、「そう思う」と回答した鳥取市内の小学生は29・0%、中学生は20・4%で、県内4市の中でも最も低い結果となっています(表1参照)。

そして、高校生ボランティア「万引き防止作戦協力隊」が、平成16年7月、鳥取県東部地域の高校2年生を対象に行った万引きについてのアンケート結果では、「自分ほどのように考えていますか」の問いに対し、「絶対にだめ」と回答した生徒が、8割に満たないことがわかって

教育懇話会でのみなさんの声

- 今、保護者を見ていても子どもたちを見ていても非常にモラルが欠けていると思う。地域や家庭生活を見ていて、なかなかモラルが育ちにくい実情があり、道徳性の欠如を危惧する。このような現状がある以上は、何らかの手だてを講ずる必要があると思う。
- 人の物を盗んではいけない、人を害してはいけないということは、絶対に守らなければならないことであり、これは厳しく叱られて当然のことだ。さらに、人に迷惑をかけるだけでなく、人に不快感を与えないマナーも必要ではないか。
- 自分の子どもでなくても、悪いことをしているのを見かけたら、相手に口答えされようが叱ることのできる勇気が大人にはなくてはならない。周囲が見ている、大人たちの目が届いているのだから、子どもたちに気付かせるためにも、大人がかかわっていく必要があるのではないか。



います(表2参照)。また、平成14年度衛生行政報告例(厚生労働省調査)による鳥取県内の15歳から20歳未満の人工妊娠中絶実施率は、全国で1位という結果も出ています(図1参照)。

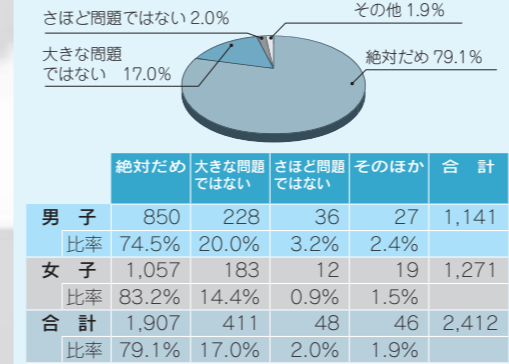
査・アンケート結果による子どもたちの意識と実態を踏まえ、市民のみならずと一緒に取り組む「モラルやマナー・ルールを大切にしている風土(人)づくり事業」を展開していきます。「モラルやマナー・ルールを大切にしている風土(人)づくり推進委員会(仮称)」を設置し、市民を対象としたフォーラムの開催などを経ながら具体的な取り組みを行う予定です。

ご意見・提言などをお寄せください。

- ▷モラルやマナー・ルールを大切にしている風土(人)づくり事業について
 - ▷教育について日ごろ感じていることなど
- 様式は問いません。持参、郵送、ファクシミリまたは電子メールで

■提出・問い合わせ先 市役所第2庁舎 鳥取市教育委員会 教育改革推進チーム ☎(0857) 20-3368 / ☎(0857) 29-0824 / 表紙下段参照 / eメール kyo-kaikaku@city.tottori.tottori.jp

(表2) Q. 万引きについてあなたはどのように考えていますか。



(表1) Q. 社会のルール・マナーを大切にしていますか。

	鳥取市	倉吉市	米子市	境港市	鳥取市	倉吉市	米子市	境港市
小学校	29.0%	35.4%	39.0%	33.5%	20.4%	23.2%	20.7%	20.8%
中学校	39.7%	36.0%	40.4%	38.3%	45.9%	46.2%	44.2%	47.6%
その他	10.2%	10.1%	8.4%	11.5%	15.9%	13.7%	17.0%	16.3%
そう思う	4.4%	4.4%	2.4%	4.4%	5.0%	5.1%	5.3%	5.3%
無回答他わからない	16.7%	14.1%	9.6%	12.2%	12.9%	11.8%	12.7%	10.0%

中学生からのメッセージ

平成16年度「全国中学生人権作文コンテスト」鳥取大会最優秀作品

呼び起こせ、心の奥の常識を

あかがわまみ 赤川真美 鳥取市立湖東中学校 2年

先日とても苦い経験をした。汽車の中でのだ。私は中学校の職場体験学習でお世話になる職場へ、下見の為、自宅のある末恒から鳥取まで一人で汽車に乗って出かけた。その帰りの汽車の中。私が目にしたものは、汽車の昇降口、地べたに座ってお菓子を食べている二人の女子高校生の姿だ。びっくりした。けれどすぐに目をそらした。そして、そしらぬふりをして周りを見まわした。年配の夫婦、小さな子供連れのお母さん、背広姿の人もいる。皆何事もないような顔をしている。私と同じように。

早く帰りたい。窓の外を流れる景色を見て思った。やっと一つ目の駅に止まって、人が乗り降りする。それでも二人は地べたに座ったまま、端の方に少し移動しただけで、おしゃべりに夢中だ。お菓子をつまむ手も動き続けている。なんだか、情けないような、恥ずかしいような……。

その時だ。汽車から降りようとした年配の女の人が、「あなたやあ、人のじゃまになるだろうが。」そう言いながら座っている二人の横を通り過ぎた。「わあっ」と思う間もなく、「うっせー、命令すんな××××××××。」「うせろ! ××××××。」二人がいつせいにまくしたてた。「プシュー。」汽車のドアが開まり、何事もなかったように走りはじめた。車内の人達は、この騒ぎにも、チラッと視線を向けただけで、平然としていた。

嫌だ。汽車から降りるまでずっとそう思い続けた。二人の女子高生も、乗客の人達も、そして私自身も、嫌だった。

座席が空いていないわけでもない汽車の中でなぜ地べたに座るのだろうか。汽車の中でお菓子を食べたりするのは恥ずかしい事ではないのだろうか。人前で化粧をしたり髪を何度もとかしたりするのは普通のことなのだろうか。そしてそれを見ていながら誰も知らんぷりなのはどうしてだろう。私達の心の中にあるはずの常識とか思いやりの心はいったいどこへ行ってしまったのだろうか。

今、世界中で平和や人権が叫ばれ、その一方で戦争をし、核兵器が作られている。最も尊いはずの人の命が奪われていく。いったい何の為に。私にはその答えはわからない。こんなおかしい世の中だから、常識なんてもう死語に近いのかもしれない。みんな自分を守るのに精いっぱい、人のことなど関係ないのだろうか。一番大切なのは自分自身。そう、私は自分が大切だ。幸せになりたい。でも、私だけでなく両親も友達も周りの人みんなが幸せになってほしいと思う。これは、誰もが持っている本当の気持ちではないだろうか。自分自身を大切に思う気持ち。それと同じように、人を思いやり、大切にすること。それはあたり前のことではなかったのだろうか。

もう一度昔に戻って常識を取り戻そう。

小さい時、砂場でおもちゃを取りあって、人をたたいておこられた。母の決まり文句は、「自分がされて嫌なことを人にしたらいけない。」小学校で、廊下で鬼ごっこをしておこられた。忘れ物をしておこられた。「きまりはちゃんと守りなさい。」消しゴムに落書きをしておこられた。給食を残しておこられた。「物を大切にいなさい。」友達とささいな事でケンカしておこられた。「人を大切にいなさい。」周りにはいつも誰かがいて、悪いことをしたら、おこってくれた。いい事したらほめてくれた。みんなあたり前のことだった。あたり前すぎて昔は何も思わなかった言葉が今になって重く感じる。私達は、しっかりと学んできたはずだ。誰もが小さい時から、親に先生に周りの人達に教わってきた。私達の心の奥にしっかりと常識がうつけられている。皆が幸せに生きていくための常識が。

呼び起こせ、心の奥の常識を。

今世の中で、誰もが平等に、自由に、幸せに生きていくために、私達にできること。それは、一人一人が、自分自身に語りかけること。他でもない、自分自身にだ。『流されるな。常識を失うな。夢と希望を失うな。』と。